

## 18. 食べやすく爽やかな晩生カンキツ「黄宝（きほう）」を品種登録申請

### 1. 背景とねらい

カンキツの県産品種のうち、ブタン類の形質を引き継ぐハッサク、アマナツ、安政柑等は、ほろ苦さのある爽やかな風味の品種として需要があるが、食べにくい形質等から消費が低迷している。そこで、爽やかな風味を持ち食べやすい（種子がない、剥皮し易い、じょうのう膜が薄い）形質を備えた新しいブランド中晩柑類を育成する。

### 2. 成果の内容

- 1) 「黄宝」は「大橘」に四倍体「不知火」（デコポン）を交配して育成した三倍体の交雑品種である（図1, 2）。
- 2) 樹姿は直立と開張の中間であり、枝梢は密に発生し極太で長い（表1）。
- 3) 葉身の大きさは語句小で、葉形指数は小で、葉の厚さは中である。花は総状で花粉量は少である（表1）。
- 4) 育成地（三原市木原町）における満開期は5月第4半旬で、着色は10月下旬から始まり、12月中旬に完全着色となる。
- 5) 成熟期はカンキツが品薄となる4月下旬以降である。
- 6) 果実重は約400gとなり（表2）、果皮は黄橙で不知火のようなネックを生じる果実もある（図1, 2）。
- 7) 果皮が軟らかいのでナイフを使わず手で剥くことができ、種子が極めて少なく食べやすい（表2）。
- 8) じょうのう膜は薄く、膜ごと食べることができるがやや苦味がある（表2）。果肉は軟らかく果汁が多い。

### 3. 利用上の留意点

- 1) 病虫害防除は中晩生にカンキツに準じて実施する。
- 2) 2010年3月4日に品種登録出願を行い公表中である（出願番号第24652号）。

（果樹研究部，栽培技術研究部）

4. 具体的データ



図1 「黄宝」の結実状況

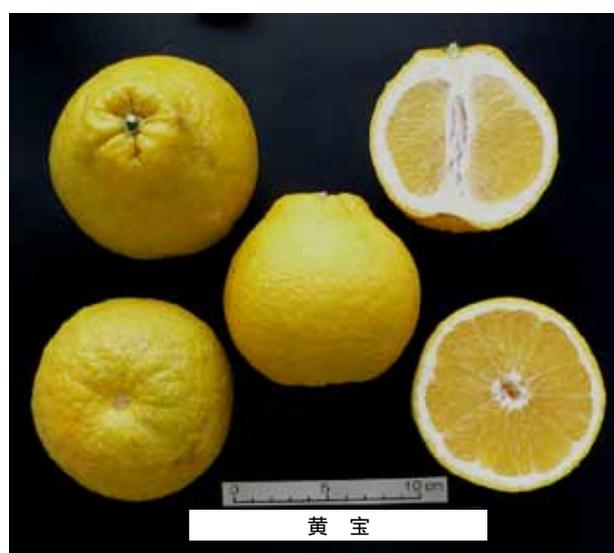


図2 「黄宝」の果実

表1 「黄宝」の樹および花の特性<sup>2</sup>

品種・系統名	樹姿	枝梢の密度	枝梢の太さ (mm)	枝梢の長さ (cm)	葉身の大きさ (cm <sup>2</sup> )	葉形指数 <sup>1</sup>	葉の厚さ (mm)	花序の形成	花粉の多少
黄宝	中間	密	極太(6.0)	長(20.6)	極小(24.2)	小(1.7)	中(0.37)	総状	少
農間紅八朔	中間	中	中(4.8)	長(22.4)	中(48.7)	小(1.7)	薄(0.29)	総状	多
川野ナツダイダイ	開張	中	中(4.0)	長(20.7)	極小(29.7)	大(2.2)	薄(0.30)	総状	多

<sup>2</sup>特性値は種苗特性分類調査報告書(1994)による。

<sup>1</sup>葉身長÷葉幅長

表2 「黄宝」の果実特性<sup>2</sup>

品種・系統名	果実重 (g)	横径 (mm)	果径指数 <sup>1</sup>	果皮厚 (mm)	果皮の硬さ	剥皮性	果肉歩合 <sup>x</sup> (%)	じょうのうの硬さ	種子数		糖度 (°Brix)	酸度 (Wt,%)
									完全	不完全 (8mm以上)		
黄宝	404	80	112	8.2	やや軟	やや易	67.7	軟	0.2	0.2	13.0	1.44
農間紅八朔	333	95	130	7.8	中	やや難	65.6	中	38.3	2.9	12.9	1.40
川野ナツダイダイ	267	101	131	6.5	中	やや難	68.7	硬	22.7	1.7	11.3	1.43

<sup>2</sup>特性値は種苗特性分類調査報告書(1994)による。3品種は2009年3月17日に収穫して2009年4月20日に調査。

<sup>1</sup>横径÷縦径×100

<sup>x</sup>(果実重-果皮重)÷果実重